

大相模の不動尊（大聖寺）と不動道

加藤 幸一

「大相模不動尊は関東三大不動の一つ」

越谷市内には、昔から有名な「大相模の不動尊」（大聖寺）がある。地元及びその周辺では成田の不動、加須の不動とともに「関東の三大不動」の一つともいわれたことがあり、多くの参詣客で賑わった寺院である。

「広範囲な信仰圏を持つ不動尊」

大聖寺にある天保六年（一八三五）に造立された「百庚申」の百基の庚申塔を見ると、次のことがわかった。

ここに刻まれた信仰心の厚かった石塔奉納者の出身地によれば、次のとおりである（越谷市内の村々は、周知のことと思うのでここでは除く）。

北は、永沼村、水角村（以上、旧・庄和町）、新方袋村、銚子口村、中野村、大場村（以上、春日部市）。

東は、魚沼村、金杉村、松伏村（以上、松伏町）、今上村、上内川村、中井村、川野村（以上、吉川市）、平方新田（流山市）。

南は、深川、本所（以上、東京）、草加宿（草加市）。

西は、佐藤村、戸塚村（以上、川口市）、深作村、内野村（以上、大宮市）、南部寺山村、玄番新田（以上、旧・浦和市）、尾ヶ崎村、村国村、横根村、谷下村（以上、旧・岩槻市）。

市）。

また、蒲生の日光街道（茶屋通り）沿いや越ヶ谷宿新町と瓦曽根村との境の日光街道沿い（現在は日光街道より少し離れた東に移転）にある不動道へ入口には、それぞれ、江戸新乗物町（現・中央区日本橋堀留町一丁目）の人々が造立した立派な不動明王像付きの道しるべの石塔がある。

以上のように、江戸時代の大相模の不動尊は江戸の町を含む広範囲の地域からの多くの参拝客で賑わったであろうことが推測できる。

「今はなき不動道」

この大相模の不動尊に通じる道が「不動道」（ふどうみち）と呼ばれていたのである。

主な不動道を四つあげると次のとおりである。

（一）旧日光街道の蒲生の茶屋通りから始まる不動道

蒲生の茶屋通りに「是より大さかミ（大相模）道」（不動道）と記された道しるべがある。

図1. 茶屋通り神谷家（蒲生一五二）路傍





江戸の新乗物町（日本橋）の人たちが建てたものである。江戸の参詣客にとつてもよく利用された不動の入口だったのであろう。この地点から不動道が始まっている。蒲生の光明院や登戸の報土院を通る道筋である。

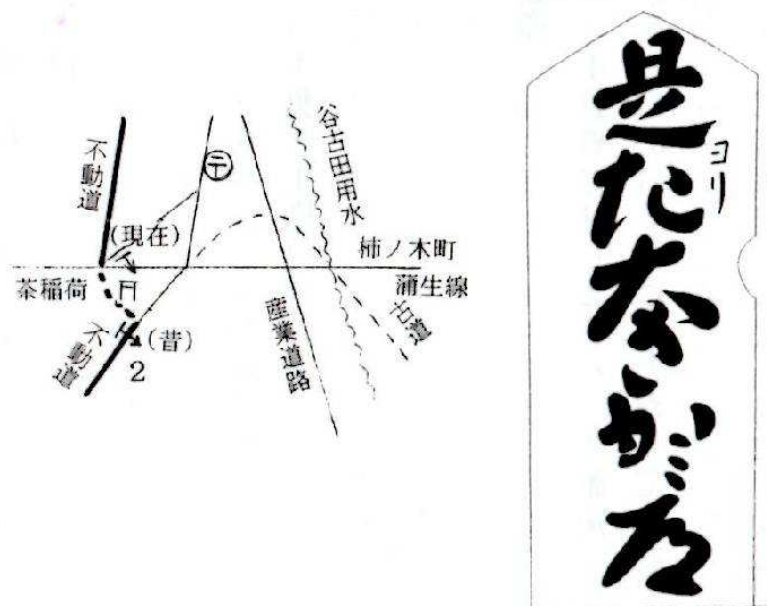
茶屋通りは草加宿と越ヶ谷宿との間にある立て場（旅人の休憩所）として発達した町で、江戸方面からの参詣客や綾瀬川に平行して流れている新川沿いの岩槻道を通つてやってくる参詣客が、ここで最後の一休みをしてから不動尊に向かったであろう。

入口から道なりに行くくと蒲生の光明院の前を通る。さらに北進すると県道（柿ノ木町・蒲生線）に突き当たるが、その少し手前で「茶稲荷」と呼ばれている稲荷社の西側を通り（現在、名残としての小さな排水路のみがある）、現在の県道を横断して蒲生三の一六の一四の植竹家の西側を北に進む。

植竹家敷地内には、越谷市内で最も古い道しるべがある²。不動尊の道しるべである。その後道なりに北上して登戸の報土院の前を通つて北に進む。

図2. 植竹家（蒲生三一一六一四）邸内

越谷市内の最古の道しるべ
（正徳三年、1713）



しかし、登戸宮前通りの手前の産業道路あたりから葛西用水に架かる西方村の流橋までの不動道は、残念ながら失われている。失われた不動道は、登戸の稲荷神社の東側を通つて、葛西用水の左岸沿いに北進して流橋に至ったと推定できる。

旧・流橋から不動尊までの不動道は今も残っている。こ
 で言う旧・流橋は、現在の流橋の少し上流に架かる人が通れ
 る程の橋をさす。この橋は、現在、通行禁止となつて残され
 ている。

葛西用水に架かる旧「流橋」(ながればし)



さらに進み、閻魔堂橋を渡り、八条用水に沿つて東進し、
 すぐ北進すると、不動尊に通じる。不動尊に通じる道の両側
 はかつての門前町を形成していた。

図3. 宮前通りと八潮越谷線の交差点

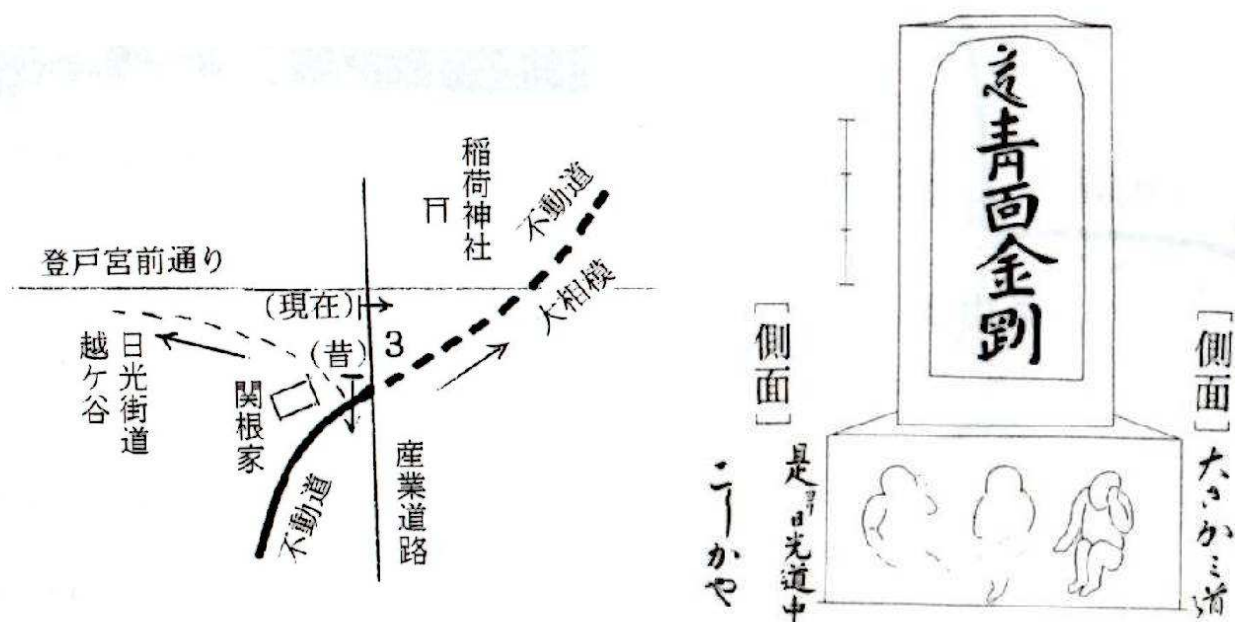


図4. 閻魔堂橋たもと

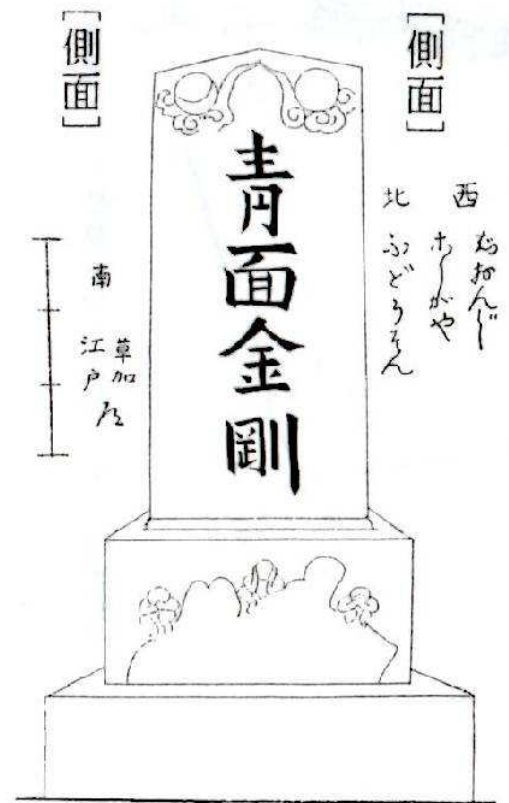
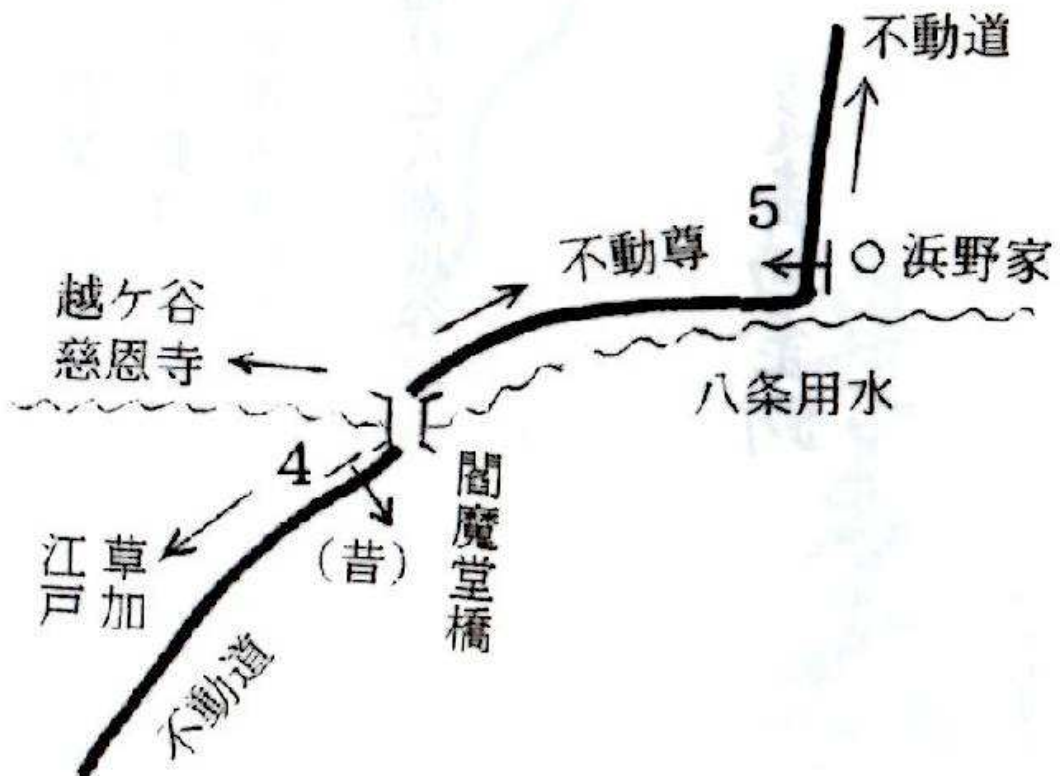


図5. 馬頭橋そば



馬頭橋から不動尊までの門前町を含む地図



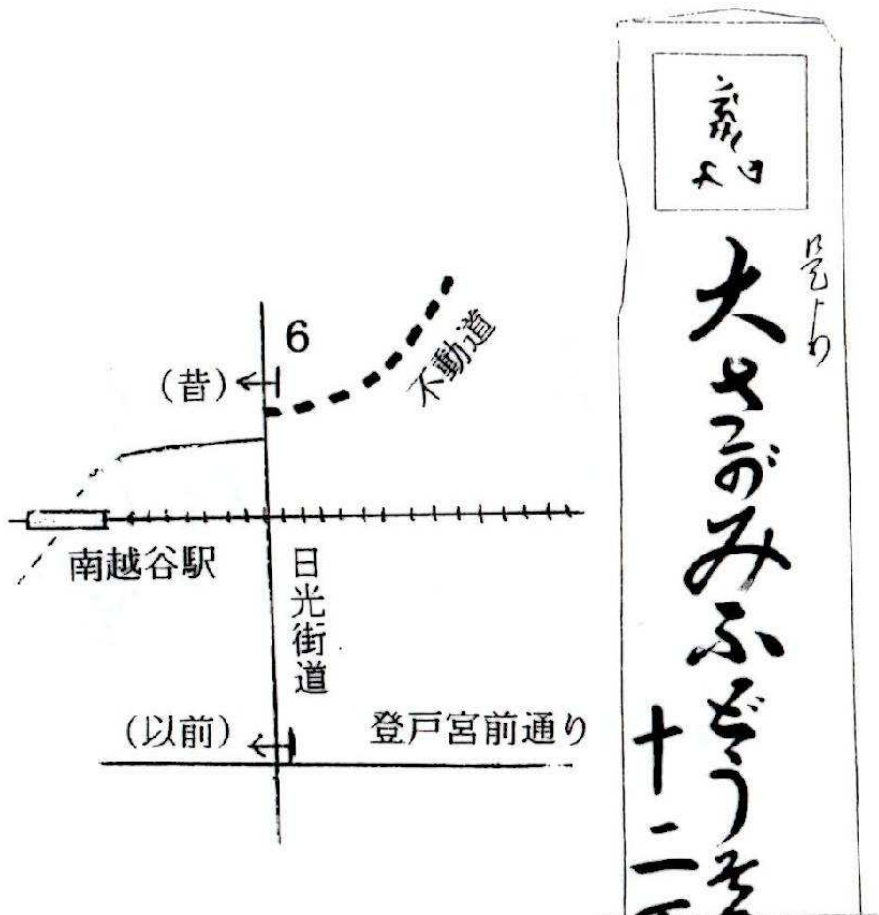
大相模不動尊の門前町

(高崎 カ 氏 の調査資料より抜粋)
一部手を加えました

(二) 旧日光街道の登戸の三軒茶屋から始まる不動道

三軒茶屋とは、現在の南越谷駅周辺である。登戸宮前通りと日光街道との交わった角地の南側に「大さがみふどうそん」と記された道しるべの石塔があったが、向かい側の常陽銀行側の角地に移る。さらに大聖寺の境内の東門通りに移転してきた。最終的な現在の場所、東門の外への移転は、平成十六年七月である。

図6・現在(不動尊)、本来の設置場所(日光街道沿い)



この石塔に刻まれている『橋向左ばゝわたし(橋向こう左、ばば渡し)道』とは、二子曾根橋の向こうの道が古利根川にある「ばば渡し」に通じる道を示す。一方、『向ふどふミち(向こう、不動道)』とは、この橋を渡らずに南に向かう道が不動尊に通じる道を示す。今もその名残の道が一部にある。この不動道を道なりに行くと突き当たる。この丁字路を右に曲がって西に向かい、元荒川に着く。

昭和三十一年に不動橋が架かるまでは「不動の渡し」(現、不動橋の上流)があった。不動の渡しの所には、臨時の橋を設けることがあった。これを「御鷹野橋」と呼んでいた。

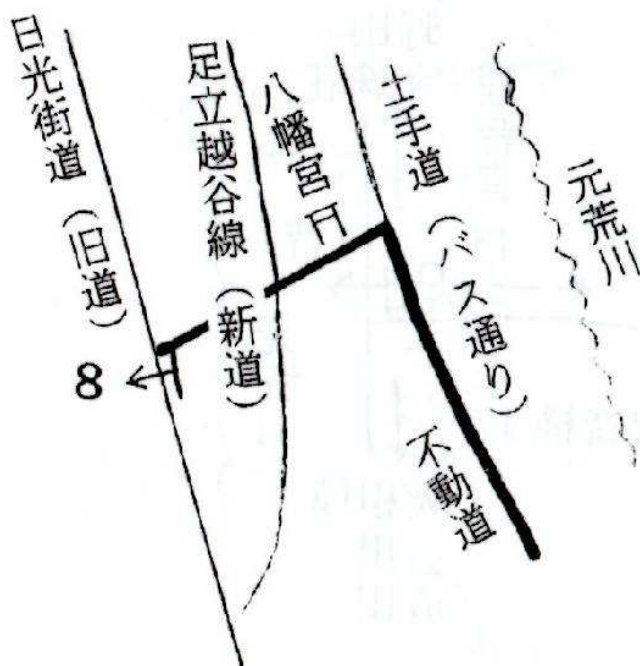
渡らずに東に向かうと、森西川(もりにしかわ、増森村西川)や吉川に通じる。

(四) 旧日光街道の越ヶ谷と瓦曾根との境から始まる不動道

日光街道の越ヶ谷宿の新町と瓦曾根村との境の路傍に、「是より大さかミ(大相模)道」(不動道)と記された道しるべの石塔がある。現在は、日光街道より東の方に引っ込んでいる。茶屋通りの道しるべと同様に、江戸の新乗物町(現、日本橋)の人たちが建てたものである。

この地点から不動道が始まっている。これより日光街道から分かれて瓦曾根溜井に進み、次は瓦曾根溜井や元荒川に沿った土手道を東にどこまでも進むと、不動尊の裏側(元荒川側)に着くのである。

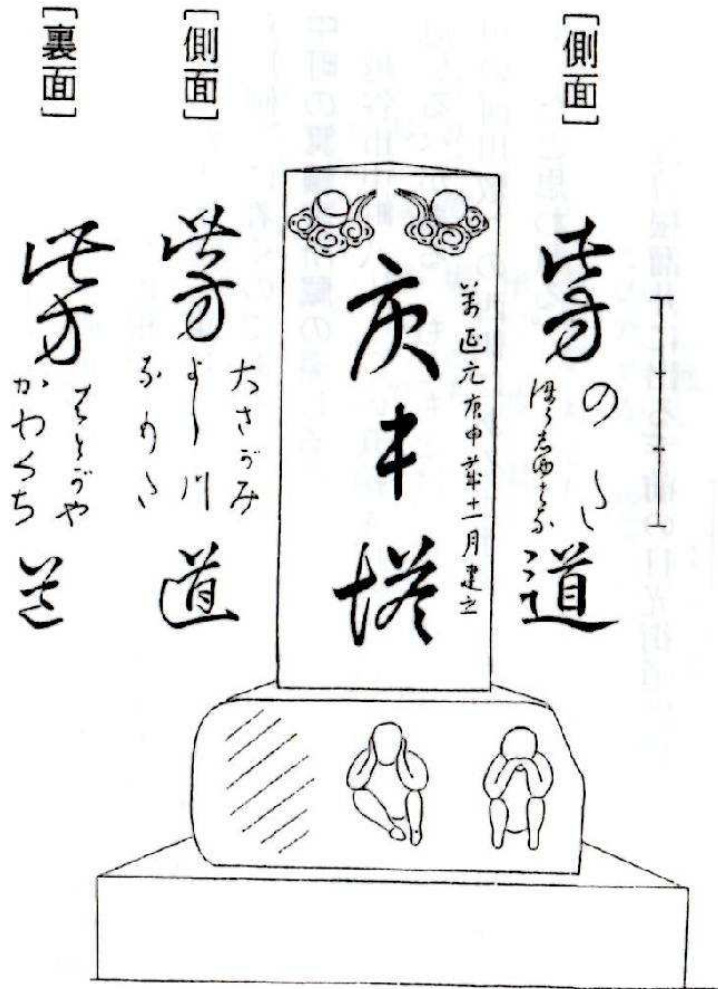
図8. 瓦曾根溜井に出る手前の日光街道路傍



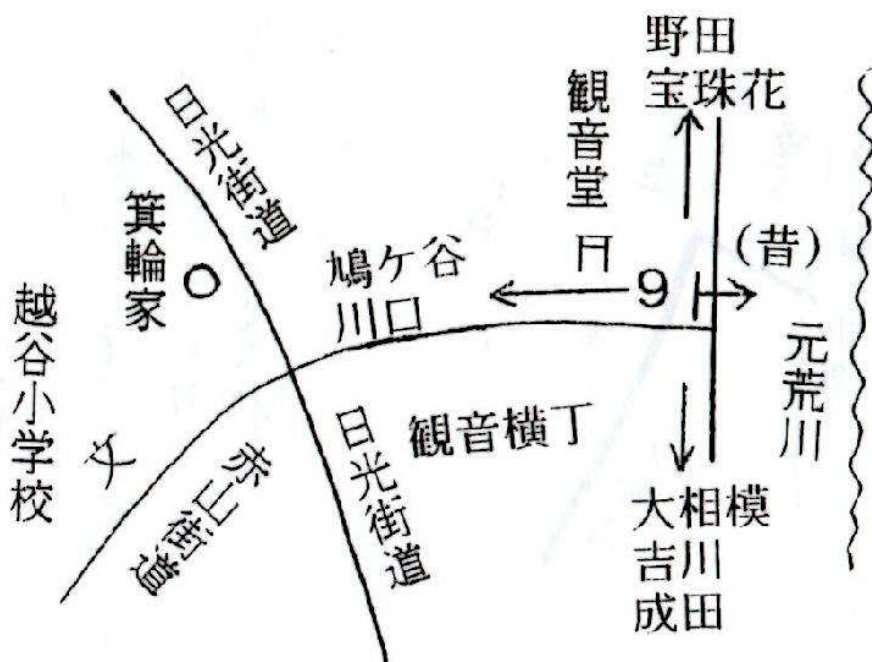
中町の箕輪家所蔵の道しるべ

越谷市中町八一二〇の箕輪家邸内には、庚申塔を兼ねた道しるべがある。もともとは、越谷市役所（かつての元荒川の河川敷）の西側にある土手道の通りの観音横丁側にあつたと思われる。現在は、その反対側にはセブンスイレブンがある。

この道しるべの正面には、「萬延元庚申歳十一月建之、庚申塔」と刻まれている。向かつて右側の側面には、「此方、のた（野田）・ほうしゆはな（宝珠花）道」、向かつて左側面には、「此方、大さがみ（大相模）・よし川（吉川）、なりた（成田）」と刻まれている。



土手道に沿って東に向かえば、大相模の不動尊やさら⁸に吉川を通つて成田不動尊へと行けることを示しているのである。歴史的価値のある貴重な石仏といえよう。



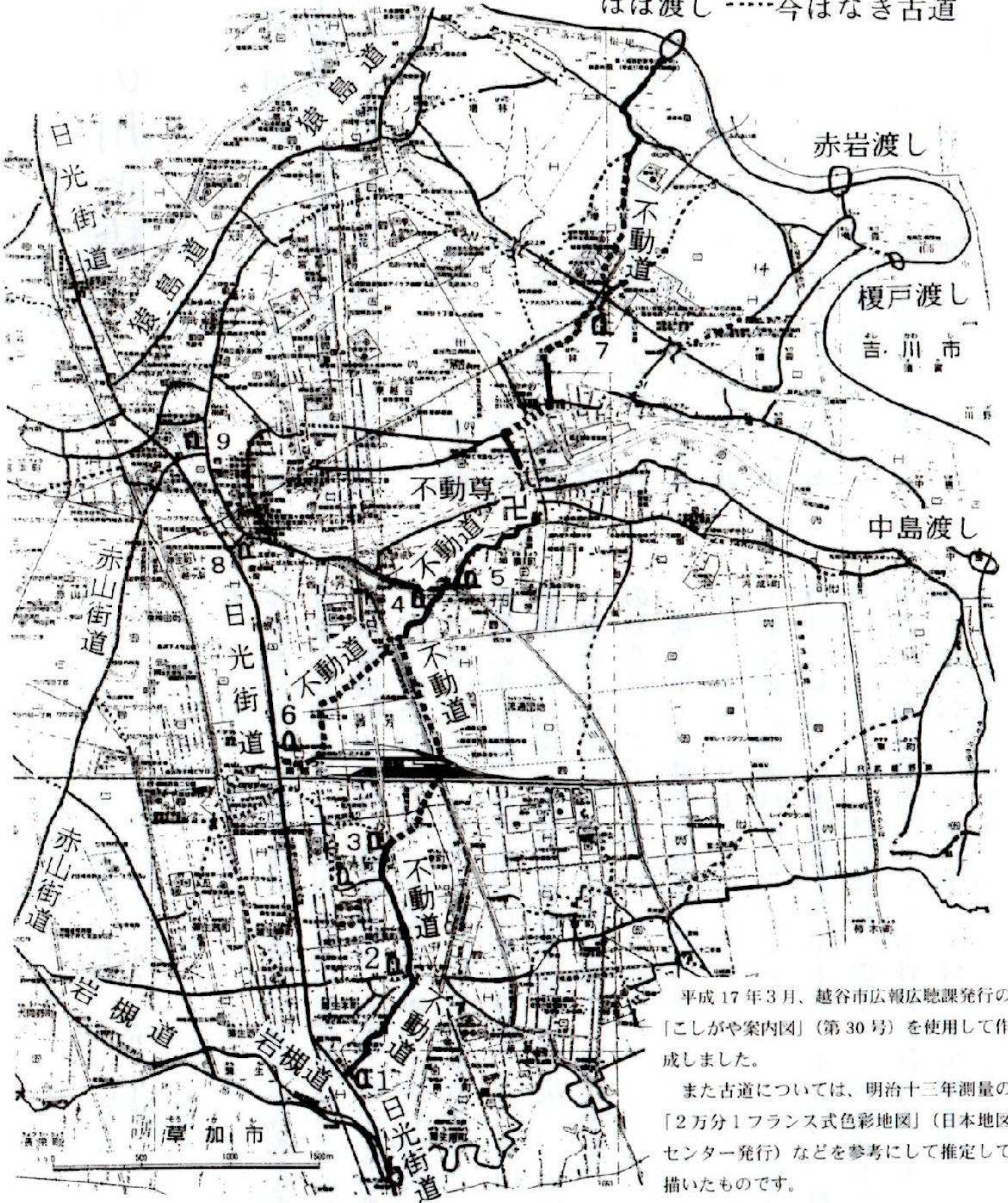
今はなき不動道

一 今も残る不動道

●●●今はなき不動道

—今も残る古道

ばば渡し……今はなき古道



平成 17 年 3 月、越谷市広報広聴課発行の「こしがや案内図」(第 30 号)を使用して作成しました。

また古道については、明治十三年測量の「2 万分 1 フランス式色彩地図」（日本地図センター発行）などを参考にして推定して描いたものです。